

## 2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	建築アーカイブズ小委員会	主 査 名：鈴木博之 就任年月：2006 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠本委員会	委員長名：初田 亨 主 査 名：
設 置 期 間	2006 年 4 月 ～ 2010 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>我が国において、よりよい生活環境の創成のために、都市及び建築環境の変容の過程と現状を認識する必要性はますます増大している。建築文化に係わる史資料の収集・整理・公開のための「建築アーカイブズ」環境の整備は喫緊の課題となっている。</p> <p>本委員会は、「建築アーカイブズ」環境の整備に必要な一次保管施設の設置を推進し、併せてアーカイブズ・ネットワークの確立と、収集・整理・公開のための共通の方法論を検討することを目的とする。</p> <p>2006～08 年度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設計事務所などを広範に対象としたアーカイブズの所在情報の調査・収集</li> <li>・ 過去の建築展の開催状況と付属資料等のリスト化</li> <li>・ 海外の建築アーカイブズの黎明期および現在の状況の把握 等</li> </ul> <p>以上の成果の中間報告として「日本における建築アーカイブズの構築に向けて」(社)日本建築学会建築アーカイブズ小委員会編、2007 年 3 月) をとりまとめ、同名の公開委員会を 2007 年 3 月 21 日に東京大学で開催した。2009 年 3 月に国立西洋美術館で建築資料の利活用をめぐるシンポジウムの開催を予定している。</p> <p>2009 年度計画</p> <p>本小委員会ではアーカイブズ情報の共有化を目指してきた。これまで行ってきた各種アーカイブズの所在情報の調査・収集等に関しては、2007 年 3 月の中間報告を経て、一定の成果が蓄積されたと考え、その後の情報も含め、2009 年に予定しているシンポジウムで一応の取りまとめを行う。</p> <p>上記の課題を継続させる一方で、その発展として 2009 年度から本小委員会が取り組むのは、建築の「記録保存」の問題である。文化的価値を有する建築物の取り壊しにあたって「記録保存」と呼ばれる活動が行われることは少なくない。しかし、何をどう記録し、残していくのか。その実際について、何らかの共通認識が打ち出されているとはいえない。また、そうした「記録保存」の成果を収集し、一定の公開に結びつくための方策も検討されていない。建築アーカイブズ＝建築文化に係わる史資料を考えた時、その設計・建設過程で生まれた史資料と同様に、失われた建築の記録資料にも無視できない重要性がある。2009 年度の活動は、こうした従来は建築の「保存」と「取り壊し」の間で捉え漏らされていた「記録保存」を、建築アーカイブズという枠組みの中で位置づけるものである。</p> <p>具体的には、これまでの「記録保存」の情報を収集し、実際の成果を確認して、リスト化を行う。同時に、それらの方法の検討を手がかりに、理想的な「記録保存」の方法論について、提言を取りまとめる。以上の前段階の作業として、過去数十年間に取り壊された建築のデータを収集、一覧として作成する。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有	
	鈴木博之 (委員長、東京大学)、山名善之 (幹事、東京理科大学)、倉方俊輔 (幹事、所属なし)、藤岡洋保 (東京工業大学)、志岐祐一 (日東設計事務所)、山崎鯛介 (千葉工業大学)、内田青蔵 (文化女子大学)、中原まり (A. I. A オクタゴン・ミュージアム)、松隈洋 (京都工芸繊維大学)、吉田鋼市 (横浜国立大学)	

設置 WG (WG 名 : 目的)		
2008 年度予算	200,000 円	ホームページ公開の有無 : 無し 委員会 HP アドレス : 無し

項 目	自己評価
委員会開催数	3 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	2009 年春に国立西洋美術館で開催されるル・コルビュジェ展の際に刊行される図録およびシンポジウムに委員が参加。アーカイブズの分析から分かった成果を発表する予定で準備を進めている。
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. アーカイブズの所在情報の調査・収集 → 主要なアーカイブズの 2006 年度までの情報についてはおおむね押さえたが、その後の変化などは未収集</li> <li>2. 過去の建築展の開催状況と付属資料等のリスト化 → 2008 年度分まではおおむね終えた</li> <li>3. 海外の建築アーカイブズの黎明期および現在の状況の把握 → アメリカおよびフランスに関しては概略を把握したが、その他の国々の状況を総合した分析はまだ達成されていない</li> </ol>
委員会活動の問題点・課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現在の状況では出張などが行いにくいいため、地方の情報が未取得</li> <li>2. 他委員会との具体的な連携に手が付けられていない</li> <li>3. 「記録保存」情報の収集は先駆的なテーマと思われるが、既往のまとめが無いために手法を模索中である</li> </ol>

\*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。